

中央大学法科大学院（大学院法務研究科）

2026 年度入学者選抜 法学未修者コース 小論文試験 出題の意図及び評価の視点

【小論文】

問1では、著者の体験と考察が述べられた文章を読んで、そこで直接的には説明されていないが著者の執筆動機と目される「壁」の意味合いを推量し、適切な日本語で説明することが求められる。長文読解力・分析力・表現力を測る出題である。

(1)では、設問の誘導に従って、箇条書きではなく主語と述語が呼応した文章により、問題文全体のテーマを端的に提示する解答が期待される。(2)では、著者が問題性（要改善性）を感じていると考えられるところを著者の体験談部分から抽出し、被支援者の自由を尊重する継続的支援を擁護した考察部分（中略箇所以降）と対照して、前者に対する著者の評価を解説することが求められる。

問2では、現代日本の社会問題に対する感度を試すと共に、問題文読解の応用により自ら問題提起し、論理的説得力のある議論により結論を導くことが求められる。論理的思考力・応用力・発想力・表現力等を測る出題である。

要社会的支援の具体例を一つ挙げていること、実践的支援のあり方について著者の主張に触れていること、自分の考えを述べていること、の三点は形式的に満たした解答でなければならない。社会的支援の具体例としては、金銭面で生活に困窮する人びとへの経済的支援のほか、児童虐待やヤングケアラー問題において必要とされる支援、犯罪被害者支援等も挙げられうるところである。現に存在する支援制度に触れても良いが、制度を含め法令知識は問われておらず、問題文において著者が自らの体験を考察しているように、解答者自身の考察として、社会的支援に含まれうる問題性と対策とを説得的に述べることが求められる。

以上